

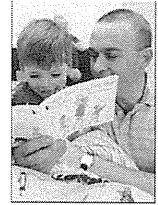
☛ Measuring Parenting

- Parenting measurement tends to include:
- (2) Parenting behaviours e.g. discipline, routine, setting boundaries:
 - 'positive parenting'; "parents setting clear boundaries and routines for children as well as being responsive and warm towards the child" (*The Foundation Years: preventing poor children becoming poor adults* 2010: 43)
 - Difficulty in how to assess these, either lot of questions e.g. to establish what a routine is or parents' interpretation of what a 'routine' is.



☛ Measuring Parenting

- Parenting measurement tends to include:
- (3) Parenting activities e.g. reading with child, helping with homework, watching television together, playing games
 - One-to-one interaction in joint activity
 - 'Home learning environment': talk to your child (with the television off) for 20 mins; play with you child on the floor for 10 mins; read to your child for 15 minutes (Centreforum 2011: 6)



☛ Measuring Parenting

- | | |
|----------------------------|--|
| • Family characteristics | E.g. presence of step-parents/children, parents marital status, number of siblings, generations in household |
| • Parental characteristics | E.g. age of mother at birth, occupation, education/qualifications |
| • Caring activities | E.g. cooking, cleaning |

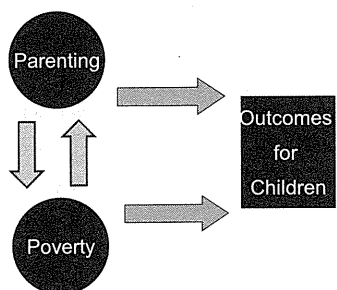


☛ Parenting and Poverty

- Link between poverty and child outcomes
- Link between parenting and child outcomes
- Link between poverty and parenting – *but not clear how this relationship operates*



☛ Parenting and Poverty
Causality?



☛ Parenting and Poverty

		Parenting		
		Low	Mid	High
Total sample (%)		33.3	33.3	33.3
Poverty history				
None	61.4	20.5	36.0	43.5
Episodic (not poor at 5)	12.9	45.6	33.1	21.4
Episodic (poor at 5)	12.2	48.7	31.4	19.9
Persistent poverty	13.6	66.3	23.1	10.6

Adapted from Kiernan and Mensah 2010

☛ Parenting and Poverty

- Current political discourse is problematic and unhelpful
- *Problematic* – because of difficulties of conceptualising and measuring parenting
- *Unhelpful* – works against development of nuanced understanding of relationship between parenting and resources

☛ Conclusion - Parenting and Poverty

Parenting in the Poverty and Social Exclusion Survey (PSE)

- Test existing measures and examine the extent and nature of poverty and social exclusion in the UK
- Parenting measures:
 - Family characteristics (including information on children in other households)
 - Parental characteristics
 - Parenting activities

✦ ***Conclusion - Parenting and Poverty***
Parenting in the Poverty and Social Exclusion Survey
(PSE)

- *Parenting will be examined alongside variables measuring poverty and social exclusion*
- *And qualitative interviews will be able to tease out the relationship between parenting practice, parental attitudes, and access to a range of social and financial resources*

公開セミナー 子どもの貧困に対する政策を考える
第Ⅱセッション 子どもの貧困と社会的排除を理解する

子どもの貧困と「重なりあう不利」

松本伊智朗

北海道大学教育学研究院教育福祉論研究グループ

本報告の目的

子どもの貧困について重なり合う不利・困難の複合的性格という観点から理解を試みること

2012/5/22

本報告の構成

- 1 「子どもの貧困」ということば
- 2 「子どもの貧困」と今日の日本社会
- 3 重なり合う不利 1
家族－子ども虐待問題を例に
- 4 重なり合う不利 2
子ども－自立援助ホーム利用者調査
- 5 責任と共感

2012/5/22

文献

- ①青木紀編著「現代日本の『見えない』貧困」 明石書店 2003
- ②平成17年度厚生労働科学研究報告書「要保護年長児童の社会的自立に関する研究」(主任研究者村井美紀)
- ③松本伊智朗「子どもの貧困と社会的公正」 青木紀・杉村宏編著「現代の貧困と不平等－日本・アメリカの現実と反貧困戦略」 明石書店 2007
- ④浅井春夫・松本伊智朗・湯澤直美編著「子どもの貧困－子ども時代の幸せ平等のために」 明石書店 2008
- ⑤山野良一「子どもの最貧困・日本」 光文社新書 2008
- ⑥阿部彩「子どもの貧困－日本の不公平を考える」 岩波新書 2008
- ⑦子どもの貧困白書編集委員会「子どもの貧困白書」 明石書店 2009
- ⑧松本伊智朗編著「子ども虐待と貧困－『忘れられた子ども』のいない社会をめざして」 明石書店 2010

2012/5/22

- ⑨平成20・21年度厚生労働科学研究報告書「子ども虐待問題と被虐待児童の自立過程における複合的困難の構造と社会的支援のあり方に関する実証的研究」(主任研究者松本伊智朗)
- ⑩松本伊智朗「子ども虐待問題の基底としての貧困と社会的支援のあり方」 子どもの虹情報研修センター紀要No8 2010
- ⑪自立援助ホームハンドブック さぼおとガイド 全国自立援助ホーム協議会 2011
- ⑫全国自立援助ホーム協議会「2009年度全国自立援助ホーム実態調査報告書」2011
- ⑬青木紀「貧困・家族・子ども」 貧困研究Vol.6 明石書店 2011
- ⑭阿部彩「弱者の居場所がない社会－貧困・格差と社会的包摂」 講談社現代新書 2011

2012/5/22

1 子どもの貧困ということば(文献③④⑤⑥)

子どもの貧困という「特別な」/「新しい」貧困？

貧困の一側面として理解

/基本問題は貧困それ自体

貧困を子どもの側から理解する/子どもに焦点

貧困が子どもの不利・困難に転化する過程

反貧困政策・実践としての「子ども政策・実践」

2012/5/22

2 「子どもの貧困」と今日の日本社会

I 市場と家族

1)市場化・民営化と公共領域の後退

2)家族に依存する公共領域(教育・社会福祉)

II 家族の状態

3)教育と子育てをめぐる競争の激しさ

4)子育て生活の社会階層的格差

III 所得・雇用・社会保障

5)貧困率の上昇と若年層の失業・不安定化

6)税と社会保障による所得再分配の逆機能

2012/5/22

2 「子どもの貧困」と今日の日本社会

I 市場と家族(文献①③)

1)市場化・民営化と公共領域の後退

教育施策・公的保育制度の動向

2)家族に依存する公共領域(教育・社会福祉)

家計の教育費負担

市場主義と家族依存主義の結合

家族の不利が子どもの不利に直結しやすい

II 家族の状態

III 所得・雇用・社会保障

2 「子どもの貧困」と今日の日本社会

I 市場と家族

II 家族の状態

3)教育と子育てをめぐる競争の激しさ

資本間の競争→労働者間→家族間→子ども間

市場と家族の関係

4)子育て生活の社会階層的格差

学校 子育て 支援的な社会関係 (文献③)

III 所得・雇用・社会保障

2012/5/22

子育て生活の社会階層的格差(1) 文献③

年収(円)	学校を時々休む よく休む		学校の成績は できるほう		学校の先生と子どもの ことよく話す		休日に子どもと十分に 遊んでいる		この1年間、家族で キャンプや旅行に行った	
	1992	2001	1992	2001	1992	2001	1992	2001	1992	2001
~200万	14.3	15.5	2.9	19.3	7.0	30.1	12.5	28.5	43.1	69.2
~300万	8.3	8.3	14.4	18.1	18.1	41.5	20.6	31.7	54.2	63.0
~400万	7.5	7.5	18.4	12.2	25.9	36.0	22.7	37.0	62.2	73.8
~500万	3.1	8.6	19.7	22.2	30.0	35.6	23.5	30.0	68.9	75.2
~700万	3.7	5.1	25.2	26.9	25.3	38.2	23.5	31.3	76.3	83.3
~1000万	9.5	4.6	38.1	30.5	27.1	39.6	27.2	27.8	81.8	88.8
1001万~	2.9	1.9	45.4	38.2	27.9	38.7	27.5	38.7	79.7	90.3

資料: 北大教育学部「教育福祉研究」第2号、10/2号・調査年は1992年と2001年。

2012/5/22

子育て生活の社会階層的格差(2) 文献③

年収(円)	子どものことでの相談 相手が家族の中に いない		子どものことでの相談 相手が家族の外に いない		うち、家族内外に相談 相手がいない		病気や事故などの際、 子どもの面倒を見てく れる人がいない	
	1992	2001	1992	2001	1992	2001	1992	2001
~200万	50.0	19.7	23.6	19.7	18.1	-	25.0	16.7
~300万	29.7	14.8	18.4	15.3	9.8	-	17.5	22.6
~400万	17.4	6.6	12.0	11.0	4.0	-	16.4	10.3
~500万	13.9	6.9	10.4	8.6	2.1	-	8.5	17.5
~700万	6.9	4.7	14.1	6.0	2.0	-	11.5	14.6
~1000万	3.5	4.7	15.6	16.8	0.0	-	14.0	13.0
1001万~	2.3	0.0	23.2	6.3	1.4	-	5.9	9.4

資料: 北大教育学部「教育福祉研究」第2号、10/2号・調査年は1992年と2001年。

2012/5/22

2 「子どもの貧困」と今日の日本社会

I 市場と家族

II 家族の状態

III 所得・雇用・社会保障(文献⑥⑦ OECD 厚労省)

5) 貧困率の上昇と若年層の失業・不安定化

子どもの貧困率 09年15.7% (85年0.9%)

20歳-24歳の失業率 10年9.1%(全体5.1%)

家族形成の基盤の不安定化

6) 税と社会保障の逆機能

子どもの貧困率が再分配後に上昇?!

社会的公正?

2012/5/22

重なり合う不利 1

家族—子ども虐待問題を例に

文献⑧⑨⑩

厚生労働科学研究

「子ども虐待問題と被虐待児童の自立過程における複合的困難の構造と社会的支援のあり方に関する実証的研究(主任研究者松本伊智朗)」

分析対象

2003度に北海道内すべての児童相談所(9か所)において虐待相談として受理したものうち、当該児童の受理時の年齢が5歳(49例)、10歳(28例)、14歳、15歳(42例)のもの119例すべて

(身体的虐待46 ネグレクト55 心理的虐待10 性的虐待8)

2012/5/22

生活基盤・貧困

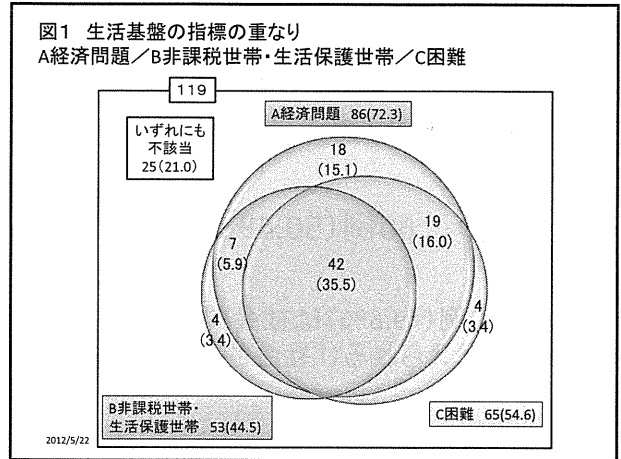
問題の基底としての貧困・生活基盤の脆弱性

A借金・多重債務、破産、経済的困窮などの
「経済問題」を経験 **86例(72.3%)**

B生活保護受給世帯 47例(39.5% 不明除66.2%)
非課税世帯 6例(5.0% 不明除8.5%)

C調査員の判断による生活程度
困難 65例(54.6%)

2012/5/22



生活基盤・貧困(内訳・参考)

生活保護受給世帯 47例(39.5% 不明除66.2%)
非課税世帯 6例(5.0% 不明除8.5%)
課税世帯 18例(15.1%)
課税状況不明世帯 48例

調査員の判断による生活程度
困難 65例(54.6%)
多少困難 32例(26.9%)
非困難 15例(12.6%)
不明 7例(5.9%)

2012/5/22

生活基盤・貧困(ネグレクト・参考)

ネグレクトと貧困・生活基盤の脆弱性

経済問題
身体的虐待 26例(56.5%)
ネグレクト 48例(87.3%)

ネグレクトのみに集中しているというわけではなく、全般的に生活基盤が脆弱であることに加えて、特にネグレクトに高いことに注意

2012/5/22

社会的孤立

支援的な親族・知人が確認できたのは

60例(50.4%)

残りの59例(49.6%)は社会的な孤立度が高いと考えられる(「社会的孤立群」)

2012/5/22

子ども・家族の諸困難 (子ども)

子どものことばの遅れや知的障害・身体障害等
 当該児童 56例(47.1%)
 兄弟姉妹 41例(34.5%)
 うち26例は当該児童と兄弟姉妹の双方

多くの子どもが、学校における困難に直面
 当該児童の42例(35.3%)
 兄弟姉妹の40例(33.6%)に不登校

2012/5/22

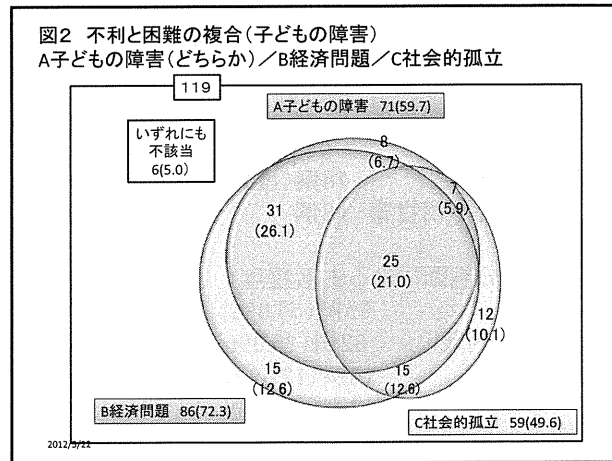
子ども・家族の諸困難 (家族)

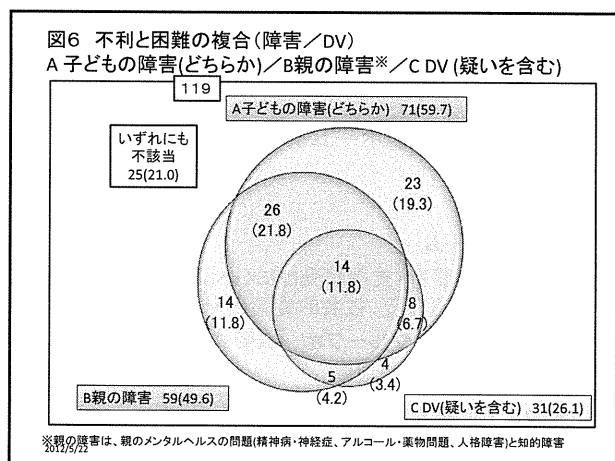
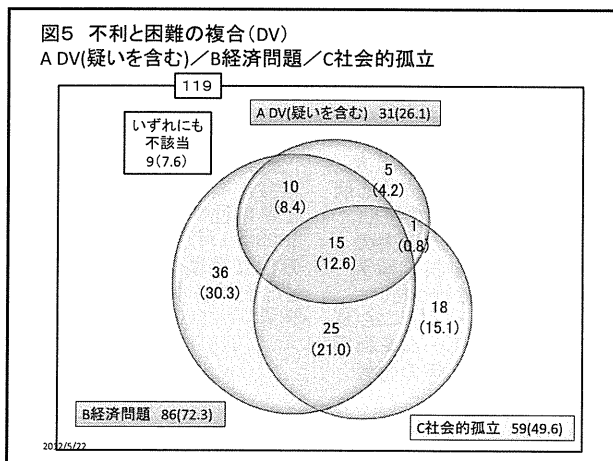
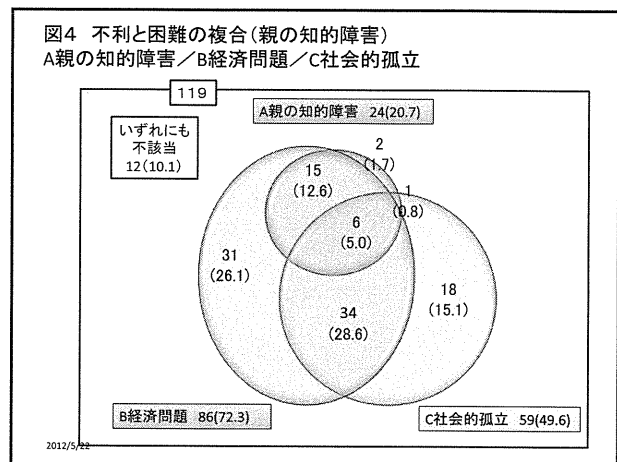
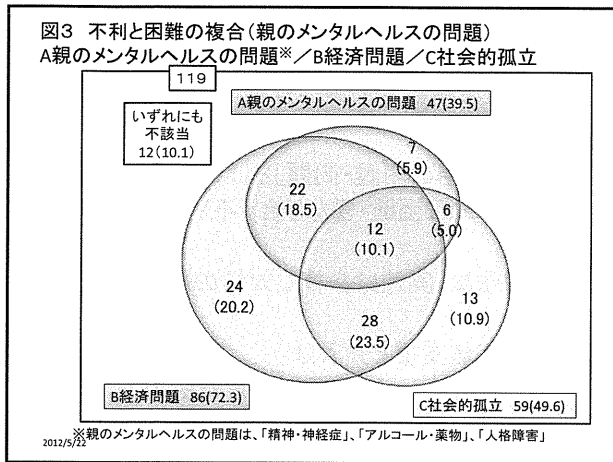
養育者のいずれかにメンタルヘルス上の問題
 (抑うつが中心)
 47例(39.5%)

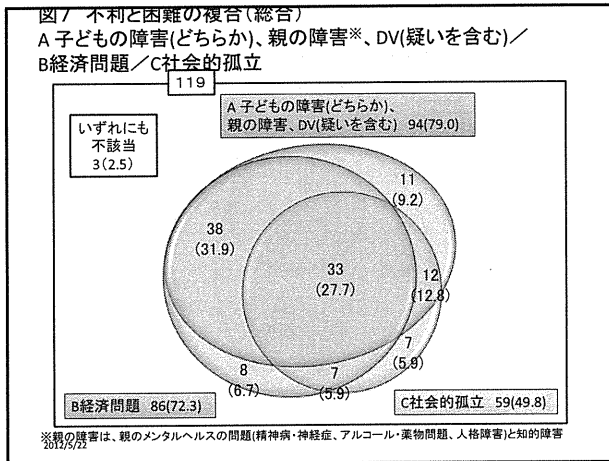
養育者の知的障害 24例(20.2%)

夫婦間の暴力、あるいは疑い 31例(26.1%)

2012/5/22







つまり

子ども虐待問題の基底には貧困と社会的孤立

貧困の「生活の困難・問題」としての現象は複合的な困難・重なり合う不利という形態

反貧困政策・実践は多様な対策の組み合わせ

個別の家族支援と介入は反貧困政策を前提として有効

2012/5/22

重なり合う不利 2

子ども 自立援助ホームの利用者調査を通して
 文献②③⑦⑧⑩⑪

自立援助ホーム
 家族からの養育・支援が受けにくい10代後半の子どもを支援する場所。社会的養護の一形態。
 定員6名前後のグループホーム形式。
 児童福祉法に法的根拠。
 最も不利を負う子ども・若者の集団

2012/5/22

使用する調査
 (いずれも報告者が調査設計・集計分析)

〈2005年調査〉
 村井美紀(東京国際大学)を主任研究者とする研究班が、全国自立援助ホーム協議会の協力の下に厚生労働科学研究費助成により行った、2005年1月～12月に全国の自立援助ホームを利用した子ども・青年の悉皆調査。

〈2008年調査〉
 全国自立援助ホーム協議会が朝日新聞厚生文化事業団の助成で行った、2008年1月～12月に全国の自立援助ホームを利用した子ども・青年の悉皆調査。

2012/5/22

利用者の概況(08年調査)

児童養護施設での生活経験 45.8%

教育歴 中卒40.7% 高校中退32.8%

入居時に仕事に就いていたもの 20.9%

退居時に仕事に就いていたもの 53.2%

正規雇用 20.6%

退居時に手持ち金がなかったもの 44.2%

2012/5/22

本人が入居前に経験・直面したこと (M.A)

	(N=310) 05年度調査	(N=386) 06年度調査
非行・犯罪の被害	52 (20.0)	61 (16.5)
いじめの被害	61 (19.7)	80 (21.6)
養育者からの虐待	146 (47.1)	211 (57.1)
返済に困る借金	24 (7.7)	12 (3.2)
解雇	19 (6.1)	23 (6.2)
仕事や学校など通う場所(所属先)がなかったこと	61 (19.6)	72 (19.5)
住む所が決まっていなかった	83 (26.8)	81 (21.9)
親や保護者の死亡	42 (13.6)	41 (11.1)
親や保護者の行方不明・連絡がつかなくなったこと	56 (18.7)	51 (13.6)
ひとりで、あるいは子どもだけで生活していたこと	24 (7.7)	31 (8.4)
行くところがなくて駅や路上・車中などで寝泊りをしたこと	34 (11.0)	33 (8.9)
学校の長期欠席・不登校	81 (26.1)	85 (23.0)
休学・退学	56 (18.1)	59 (15.7)
複数箇所の施設・里親等での生活体験(措置変更・解除等による)	62 (20.0)	69 (18.7)

2012/5/22

不利と困難の3側面

I 被害(05/61.9% 08/70.4%)

- ・ 非行・犯罪の被害
- ・ いじめの被害
- ・ 養育者からの虐待

II 生活基盤の崩壊・貧困(05/55.2 08/47.4)

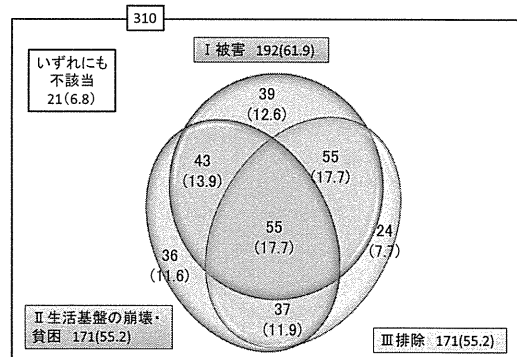
- ・ 返済に困る借金
- ・ 住むところが決まっていなかったこと
- ・ 親や保護者の死亡
- ・ 親や保護者の行方不明・連絡がつかなくなったこと
- ・ ひとりで、あるいは子どもだけで生活していたこと
- ・ 行くところがなくて駅や路上・車中などで寝泊りをしたこと

III 排除(05/55.2 08/58.3)

- ・ 仕事や学校など通う場所(所属先)がなかったこと
- ・ 学校の長期欠席・不登校
- ・ 休学・退学

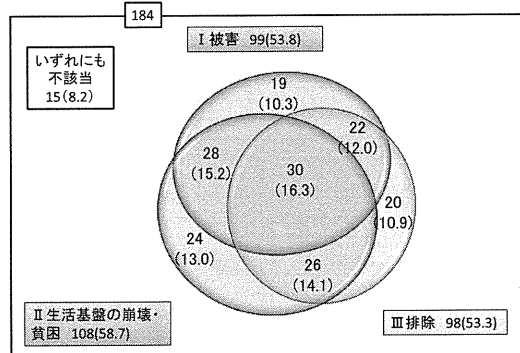
2012/5/22

図8 2005年度調査 男女 利用者の困難



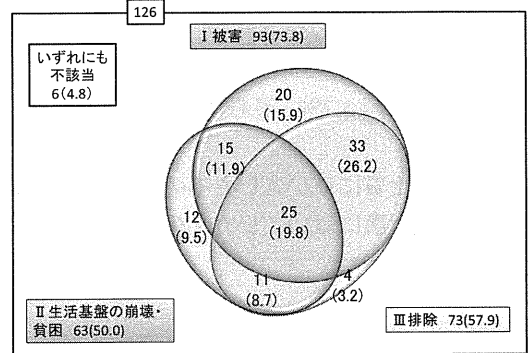
2012/5/22

図9 2005年度調査 男 利用者の困難



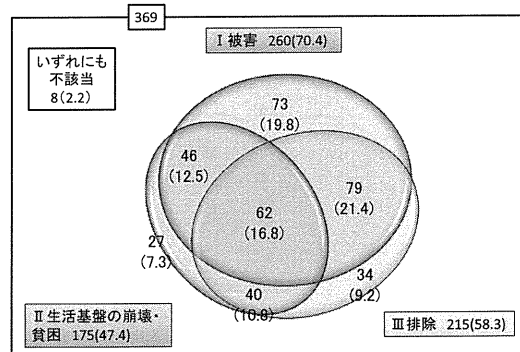
2012/5/22

図10 2005年度調査 女 利用者の困難



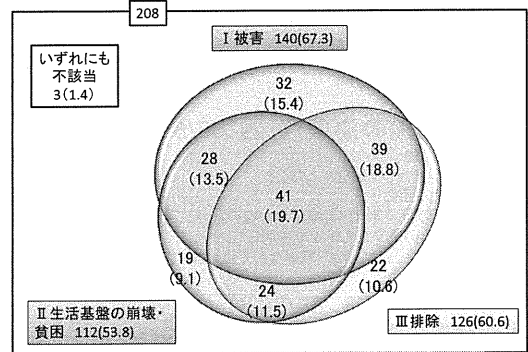
2012/5/22

図11 2008年度調査 男女 利用者の困難



2012/5/22

図12 2008年度調査 男 利用者の困難



2012/5/22

5 責任と共感

例えば登山－究極の自己責任を問うスポーツ
入山する・しない/ルート決定
「完全な」自由意思/選択と決定の自由
さて「人生」は？
「誕生」と「死」は自己の選択と決定による？
ルートの選択は自由意志？
生まれた時点での「人生の見通し」の不平等
自立・自助努力－包摂の基盤・安心と相互の承認・共感があってこそ！

2012/5/22

5 責任と共感

格差の拡大
異なる住む世界(空間・関係・心理)
共感・想像・信頼・社会統合をこわす
文献③④⑭
貧困を生み出すと同時に貧困を見えにくくする
見ようとすれば見える－共感を基底におく理解
容認できない不平等
社会的公正 個人の「しあわせ」と社会の持続性

2012/5/22

子どもの貧困と ソーシャルワーク

立教大学コミュニティ福祉学部
湯澤直美

本報告の目的

- ※ 日本においては、「子どもの貧困」の緩和／解決に焦点化した政策的関心は薄く、それに伴い貧困に晒されている子ども・子育て家庭への実践プログラムも未成熟である。
- ※ 「待ったなしの子どもの現在」に対し、実践プログラムを構築することは急務の政策課題といえる。
- ※ 本報告では、「ソーシャルワーク」という枠組みから、日本における既存の実践を「子どもの貧困」との関係で再検討するとともに、行政やNPOによる実践の広がりを紹介し、今後の展望を考察する。

本報告の構成（1）

- ※ 1 貧困とソーシャルワークという課題設定
 - ① ソーシャルワークと貧困
 - ② 日本の現況
- ※ 2 支援体系を捉える枠組み
 - ① 貧困に晒されている子どもをソーシャルワークの視点から捉える際の検討の枠組み
 - ② 貧困に対応するステージ
 - ③ 子どもの貧困解決に携わる社会資源／地域環境
- ※ 3 子どものライフステージからみた貧困問題への対応
 - ① 乳幼児期：早期発見・早期予防の観点から
 - ② 義務教育期：
 - ③ 義務教育修了後・若者期：

本報告の構成（2）

- ※ 4 新しい実践の動向をどうみるか
- ※ 5 福祉実践・教育実践と
子どもの主体化

ソーシャルワークの国際的定義

- ※ ソーシャルワーク専門職は、人間の福利（ウェルビーイング）の増進を目指して、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人びとのエンパワーメントと解放を促していく。
- ※ ソーシャルワークは、人間の行動と社会システムに関する理論を利用して、人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する。人権と社会正義の原理は、ソーシャルワークの拠り所とする基盤である。
(国際社会福祉学校連盟・国際ソーシャルワーカー連盟、2001)

貧困とソーシャルワーク

- ※ ソーシャルワークが本来的に果たしてきた役割としての「貧困への挑戦／緩和」
- ※ 2008年4月：国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）総会にて、「貧困緩和とソーシャルワーカーの役割に関する国際的方針草案」を起草

ソーシャルワークの価値

- ※ ソーシャルワークは、人道主義と民主主義の理想から生まれ育ってきたのであって、その職業上の価値は、すべての人間が平等であること、価値ある存在であること、そして、尊厳を有していることを認めて、これを尊重することに基盤を置いている。
- ※ ソーシャルワーク実践は、1世紀余り前のその起源以来、人間のニーズを充足し、人間の潜在能力を開発することに焦点を置いてきた。人権と社会正義は、ソーシャルワークの活動に対し、これを動機づけ、正当化する根拠を与える。
- ※ ソーシャルワーク専門職は、不利益を被っている人びとと連帯して、貧困を軽減することに努め、また、傷つきやすく抑圧されている人びとを解放して社会的包含（ソーシャル・インクルージョン）を促進するよう努力する。

<http://www.jassw.jp/international/pdf/100826.pdf> (2012年1月4日)

「貧困緩和とソーシャルワーカーの役割に関する国際的方針草案」

- ◆ 「ソーシャルワーカーは、歴史的に、貧民とともに、また貧民を代弁して活動する重要な専門職であった。国際ソーシャルワーク実践は、地域レベルでの貧困緩和活動に寄与することができる」
- ◆ 「IFSWは、貧しい人々が経済的、そして政治上の、そして社会的な前進を組織化して促進する権利を再確認する。それは、社会の不平等を促進する状況や政策に挑戦することによってである」

<http://www.jasw.jp/news/IFSWmessage.pdf> (2012年1月4日)

日本の現況①： ソーシャルワークにおける貧困への視座

日本：「貧困の緩和／貧困の連鎖の解消」に焦点化した実践は希薄／未成熟

海外の取組み例：→埋橋報告参照

近年の生活保護行政の変化（日本）

自立支援プログラム策定事業の導入（2005年度～）

自立概念の再検討と基礎自治体への普及（その評価には要注意）

経済的自立／日常生活自立／社会生活自立

+

被保護者の社会的居場所づくり支援事業

これらの動向のなかで、ようやく子どもにも焦点を当てた取組みの登場：高校進学支援プログラム

子どもの貧困対策支援の充実

（「貧困の連鎖」の防止）平成24年度予算案

日本の現況③： 不十分な実態の可視化【一例】

(n=483 単位：世帯)

開始時の世帯類型	計	子どもなし	子どもあり	18歳未満の子のみ	18歳未満と18歳以上の子	18歳以上の子のみ
計	483	281	182	160	5	26
高齢者世帯	64	64	0	0	0	0
母子世帯	123	0	123	123	0	0
障害者世帯	16	16	0	0	0	0
傷病者世帯	202	162	40	21	3	16
その他世帯	78	49	29	15	0	10

注：「子ども」とは世帯主あるいは世帯員との経済的であり、「他世帯から成る世帯」世帯の頭は18歳未満であるが「子どもなし」に分類している

A自治体：2005年度廃止世帯483世帯の内訳

子どものいる世帯：総数に対して66%（18歳未満で34.4%）

母子世帯のうち100%

傷病者世帯のうち24.7%＝約4世帯に1世帯

その他世帯のうち59.2%＝約6割

出典「生活保護世帯の世帯構造と個人指標」（湯澤・藤原：2009）

日本の現況②： しかし、不十分な実態の可視化【一例】

<生活保護世帯に関する政府統計>

生活保護をめぐる現状②（世帯類型別の保護世帯数と世帯保護率の推移）

10年前と比較すると、各世帯類型ごとにみた保護世帯数、世帯保護率ともに増加しているが、特に、稼働年齢層と考えられる「その他の世帯」の割合が大きく増加している。

◆10年前（平成11年度）

	被保護世帯総数	高齢者世帯	母子世帯	傷病・障害者世帯	その他の世帯
世帯数	703,072	315,933	58,435	278,520	50,184
(構成割合%)	(100)	(44.9)	(8.3)	(39.6)	(7.1)
世帯保護率(%)	15.7	43.6	131.0	6.8	3倍強の増加

◆現在（平成21年度）

	被保護世帯総数	高齢者世帯	母子世帯	傷病・障害者世帯	その他の世帯
世帯数	1,270,588	563,061	99,592	435,956	171,978
(構成割合%)	(100)	(44.3)	(7.8)	(34.3)	(13.5)
世帯保護率(%)	26.5	58.5	132.4	16.2	

子どもはどの類型にいますか？
把握不能

www.cas.go.jp/jp/seisaku/syakaihosyou/syutyukento/.../siryu2.pdf

日本の現況④： 不十分な実態の可視化【一例】

政府統計・自治体統計などから「みえない」貧困・低所得世帯と子ども

生活保護基準以下の有子世帯数

貧困・低所得の有子世帯の社会階層

例：保護者の学歴階層：児童虐待・DV被害者統計 × 社会的養護にある世帯 ×

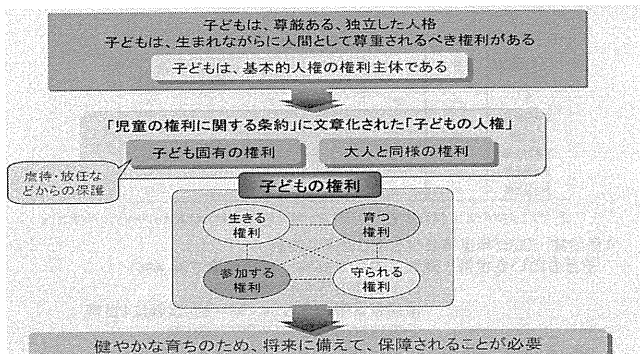
生活保護基準以下の非保護・有子世帯の現況

高校中退理由：シングルアンサーのため経済的理由は低くなる

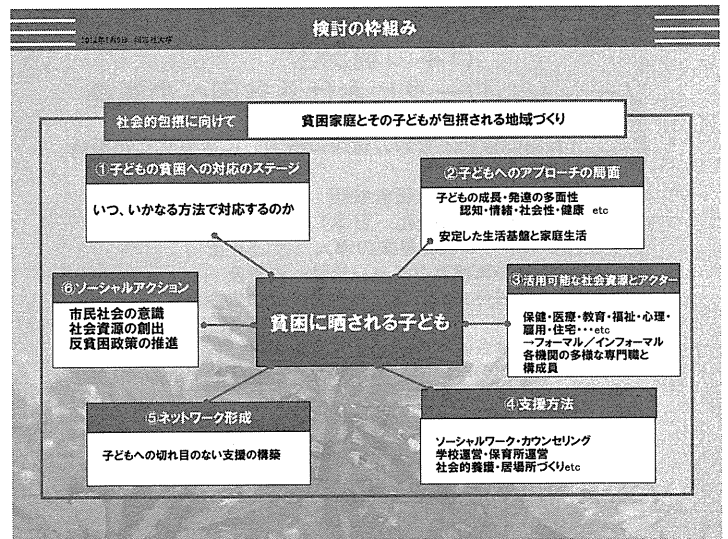
学校給食費未納問題：保護者本人ではなく学校側の判断で回答

等々

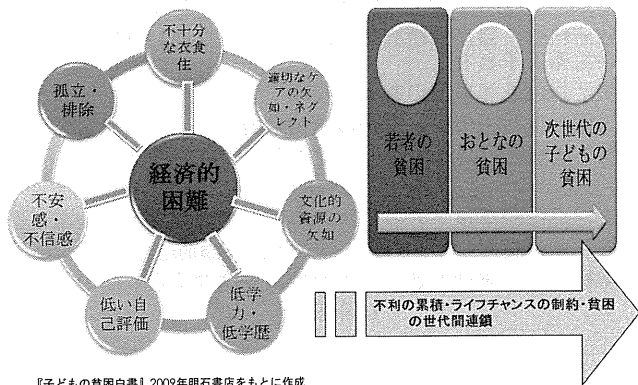
2012年1月9日 同志社大学
 ソーシャルワークを「子ども×貧困」の視座から構築する必要性①
 「人間の普遍的な価値である人権は、子どもの権利から始まる」
 「子どもの貧困は、子どもの権利条約に明記されているすべての権利の否定（関連）」



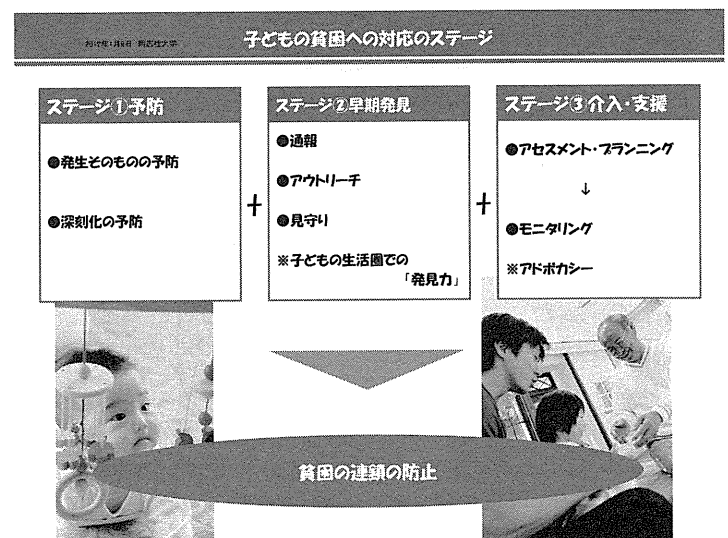
尼崎市ホームページ：http://www.city.nimigasaki.hyogo.jp/dbpx_data/material/localhost/sosiki/046/joureino.pdf (2012年1月4日)

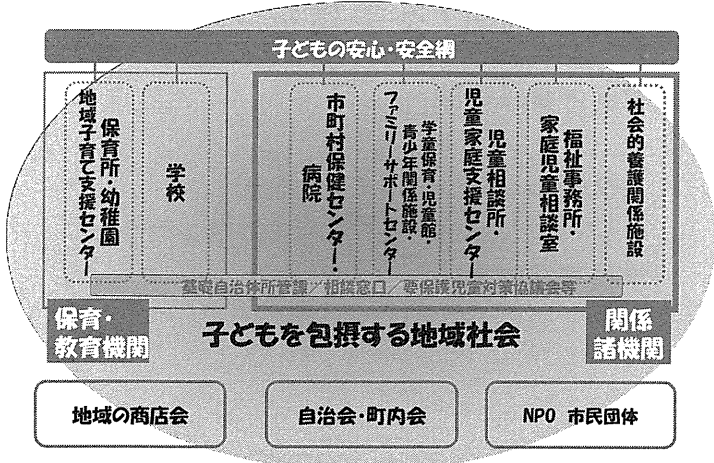


2012年1月9日 同志社大学
 ソーシャルワークを「子ども×貧困」の視座から構築する必要性①
 子どもの貧困の態様「不利の雪だるま＝社会的不利」



『子どもの貧困白書』2009年明石書店をともに作成



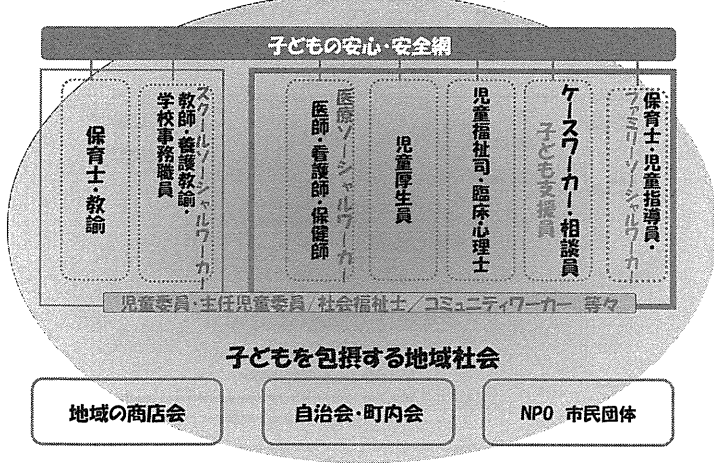


ライフステージ別主要事業一覧表 (子育て支援・保育サービス・教育)

ライフステージ	0歳未満	0歳～1歳未満	小学校	中学・高校	
子育て支援	子ども手当 保育料軽減の制度 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金
保育サービス	乳児保育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	乳児保育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	乳児保育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	乳児保育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	乳児保育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金
教育サービス	幼児教育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	幼児教育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	幼児教育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	幼児教育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金	幼児教育 児童発達支援 ひとり親家庭への相談活動、児童扶養手当、母子家庭自立支援助成金

※1 児童発達支援事業の対象は小学1～3年生までとなっています。
 ※2 養育費の滞りなく支払われること、母子家庭等支援も同様。
 ※3 特別支援教育は学校教員も担当。

<http://www.city.takasago.hyogo.jp/index.cfm/8.15828.c.html/15828/20100520-104725.pdf> (2011年1月4日)



2012年1月9日 同志社大学 **妊娠・出産期／乳幼児期**

- ※産まれる前からの発見・支援
母子保健における取組み
妊娠SOSホットライン
- ※新生児期／乳幼児期の重要性
各種健康診査
乳幼児家庭全戸訪問事業
- ※保育所におけるソーシャルワーク機能
保育士業務としての「保護者支援」
保育士養成課程における「家庭支援論」「相談援助」の設置

義務教育期

- ※ 学校空間と生き辛さを抱える子ども
「学校」という場を通じた「発見」
 - ※ 「見えやすい不利」と「見えにくい不利」
→ 「見えにくい不利」の防止
 - ・ 自尊感情・自己肯定感
 - ・ 人への基本的信頼感（峯本）
- 情緒的愛着障害と試し行動

学校における多様なアクター

- ※ 教師／養護教諭
- ※ スクールソーシャルワーカー
／カウンセラー
- ※ 学校事務職員

義務教育期

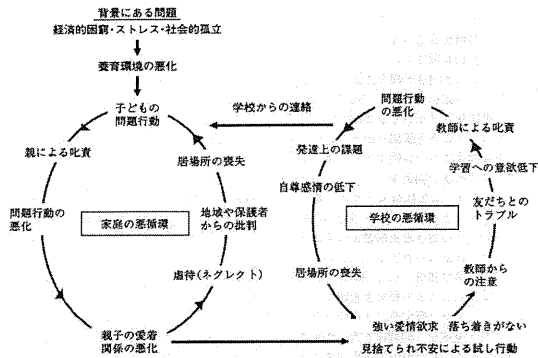
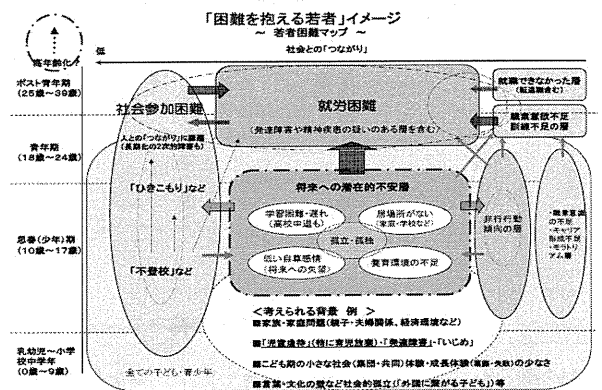


図1 貧困問題を背景とした子どもの問題悪化のメカニズム (学校と家庭の悪循環の相互作用)
出典「子どもの貧困とスクールソーシャルワーク」(大塚：2011)

若者期：社会への移行期



横浜市関口昌幸氏講演資料より：http://www.jil.go.jp/event/ro_forum/201110709/houkoku/03_sekiguchi.htm (2011年1月4日)